＜篠原の歴史講話＞

篠原に生きる

（私の思い出から その1）

青柳　保栄（４組在住）

私は昭和20年の９月15日、0歳の時に親父に連れられて篠原に入植しました。戦争が終わったのが８月15日なので、戦後すぐにここに来たのだ、と親父がよく言っていたの覚えています。

とにかく山を切り拓いて開墾する毎日で、食べるものは何もなかったのです。飢えに苦しみ、３～５年のうちにかなりの離農者がありました。入植当時は75戸あった世帯が、７～８年で60戸になっていました。

４組の人たちはこの下の清水さん宅の周りに住んでいました。農地が上に分散されるという事になったのですが、水がないのです。第3組の人たちは今の保坂さん宅の近所にいて、あそこは井戸を掘れば水が出たのです。ところが４組の方はいくら井戸を掘っても水が出ないのです。ホントに苦労しましたね。それで開拓からの予算で昭和25年には第３組と第４組に水道が入ったのです。それで現在私たちが住んでいるところに家を建てて生活が出来るようになり、この頃からやっと野菜や食べるものが採れるようになりました。

昭和27～28年頃大飢饉がありました。その時はホント食べるものがなくて、トウモロコシの粉を「お練り」にして食べたり、麦を作っている人は「ホウトウ」にして食べたものです。米は取れない…、そんな飢えの時を過ぎてから酪農を始める人が出てきました。昭和30年代になると数十軒の人たちが農林漁業資金からお金を借りて、オーストラリアからジャージー牛を輸入して育てたりしました。それに段々と作物も採れるようになりました。

昭和37年頃、今の篠原のカントリークラブのところに36丁歩の土地がありましたので、それを売り、一軒当たり60万円の配当があって、これで借りていた借金を返すことが出来ました。この頃から生活も何とか楽になってきました。それと畑作業をやらなくて、勤めに行く人もジワジワ増えてきました。更に昭和40年代になると、土地や畑を全部売って離農した人も何人かありました。

でも、ここで辛抱した人はその後はドンドン良くなっていきました。やっぱり人間は辛抱して耐えていかないと、途中で諦めたらもうダメですネ。つくづくそう思いますよ。それでもね、この公民館を建てる時は75戸あった住居は55戸になっていました。

昭和37年に全戸に水道が入りました。これで井戸水生活というのはなくなりました。

それで篠原財産区の人たちはいまでもその時の水道を維持して使っています。

終戦直後の厳しい時代はどこでもそうだったと思いますが、ホントに食べるものが無かった時代の先輩たちは、今の裕福な時代は想像も出来なかったと思います。でも、いい時代になってみなさん長生きも出来る時代になりました。

言い忘れましたが、昭和22年にここに電気が入りました。その時はここの住民の人たちが木を切って電柱としてそれを建てました。それで電気が入ったのです。

当時の生活といえば、回りは松林ばっかりなので、その松の根っこを掘って煤を取る会社に売ったり、みんな土方(二コヨンですよ)に行ったり、私も若い時はかなり土方に行きました。これが一番早くお金になりましたネ。

私もここまでいろんな事をやってきたけど、これ以上いろんな事をやっちゃいけない、と思って22歳の頃から大工を始めました。今でも現役でやってますが、振り返ると本当にいろいろ大変でした。とにかく食べ物がなかった…、というのが一番切なかったですね。

学校は東保育園の下にあって、毎日5キロの道を往復しました。雪の時は辛かったですね、今みたいにドカ雪はなかったけど、40～50センチの雪はよく降りました。今よりずっと寒かったですよ。

当時住んでいたところは、萱を簡単に葺いただけでお月さんが覗けるようなバラック小屋で、雪が降る夜など寝ていると顔に雪が降りかかる、そんな小屋に住んでいましたよ。想像もつかないと思いますが、丸太を置いた上に莫蓙を引いて、煎餅蒲団で寝ていました。寒い時は半纏を着込んで寝ました。そんな時代でしたね。

篠原神社は昭和47年に皆さんの寄付で建て替えました。それでね、皆さんは開拓祭、開拓祭と言うけど、以前はそうは言いませんでした。篠原神社のお祭りという事です。いつ頃から開拓祭というようになったのか、私は記憶にありません。篠原神社のお祭りで良いと思います。大東豊も開拓祭と言っているようですが…。

それと、入植者は夫婦のどちらかが山梨県人でないとダメだったのです。田中さんのお母さんは甲府、及川さんは山梨市、私は塩山の出身です。大東豊当たりでもそうだと思います。

この公民館を建てる時もサントリーがモルツの貯蔵庫作るとき売れた土地の権利金を貰ってこれを建てました。この建物自体が2300万くらいかかりました。それにここの備品と土地、（土地は無償で提供しましたが）公民館の下の駐車場とグラウンドを合わせると当時のお金で4300万円くらいになったと思います。当時は戸数も少なかったのでこれで良かったけど、今みたいに大きくなるともう手狭ですね。

でも、これを建て替えるとなると、4、5年前にここで建て替えたときに70坪くらいで5000万くらいかかった。今5000万なんて財産はこの地域にはありません。基金を貯めてもいつになるか、ちょっと分かりませんが、段々老朽してくるので考えなくてはなりませんね。

ところで、この地域がこれほど発展するとは思いませんでしたね。だから先代の人たちが聞いたら本当にビックリすると思います。ここは雨の被害も少ない、いくら降っても流される事はありません。それに噴火の心配ありません。ただ、台風・風には気を付けて下さい。雪が降ったときは皆さんで協力し合えばどうにかなると思います。
確かにここは寒いけれど、住んで素晴らしいところだと思います。みなさんここに住んでこられた事は大正解です。（大きな拍手）ここは交通の便もいいし、良いところです。これからもみなさんこの地域を愛し、協力し合って仲良く、共助（お互いに助け合う）で、この地域を盛り上げて頂きたいと思います。

今回は急なお話の依頼でしたので、あまり整理出来ていませんでした。私のおぼろげな記憶を辿ると、このくらいでしょうか…。ご清聴ありがとうございました。

（大きく長い拍手）

＜あとがき＞

この文章は2014年9月15日の開拓祭・敬老の集い当日、今日に至る篠原区の歴史を4組の青柳さんの記憶を元にお話して頂いたものを録音・書き起こし、編集したものです。
講演が終わった後、もっとこのような話を聴きたい、という声が多数寄せられました。青柳さん本人も機会があれば、再度キチンと整理して話をしたい、という事でしたので、次の機会に続きのお話をお願いしました。そのような理由により、表題に「その1」と明記しました。

編集・文責　菊地（3組）